



HP



Facebook



随時更新しています
のでご覧ください。

前期人権教育強化月間で学んだこと

6/3～7/3までの期間、前期人権教育強化月間として各学年で学習をしてきました。前期人権教育強化月間の導入として、学校長より「瓦からのメッセージ」について講話があり、「相手のことを思い、行動することの大切さ」について考える時間となりました。

前期人権教育強化月間 校長講話

『瓦からのメッセージ～』

皆さんは、奈良に薬師寺というお寺があることを知っていますか？ 修学旅行では奈良の東大寺、法隆寺には行きますが、薬師寺はバスの移動中に遠くに見ることができました。私は3年2組のバスに乗りましたが、これからお話することは、薬師寺を見ながらバスガイドさんも説明してくれたことです。2組の皆さんは覚えている人がいるかもしれません。また、他のバスでもガイドさんが説明してくれたクラスがあったかもしれないですね。

薬師寺の特徴は東西に2つの塔があることです。こちらを東塔、こちらを西塔といいます。皆さんも気付くように、色合いがちがいますね。実は東塔は奈良時代の730年に造られたものです。西塔は戦国時代の戦いの中で、火災に遭って焼失してしまい、昭和56年（1981年）に再建されたので新しいのです。今日はこちらの古い「東塔」について話します。約1300年前から残る、日本の宝ともいえる建物です。



2009年から2021年にかけて東塔の解体修理が行われました。解体修理とは、一度解体（分解）し、傷んだ部分を修理したり交換したりしてから、再び組み立て直す大規模な修理です。2012年には瓦をはがす工事が始まりました。総瓦枚数33600枚、内平瓦17000枚。そのうち4815枚に寄進名瓦（寄付した人の名前が釘書きされた瓦）が見つかりました。その内の345枚に長野県の小・中・高校名が釘書きされていました。なんと学校名があったのは長野県だけでした。その学校名の一覧があります。このあたりの地域の小中学校の名前もあるので見てみましょう……。どうして長野県の学校名だけが記されているのでしょうか？

実は東塔は太平洋戦争後まもない昭和20年代に大修理が行われました。しかし、その頃の日本は、戦争が終わったばかり。食べるものも十分ではなく、多くの人がまだまだ苦しい生活をしていました。当然、お寺を修理するためのお金を集めるのも簡単ではありません。そんな中、薬師寺から長野県に声がかかります。それは、全国から訪れる修学旅行生の中で、長野県の学生の見学態度が大変素晴らしい。なので、長野県の学生なら寄付に協力してくれるのではないかと考えたのです。その話を聞いて、長野県の子どもたちは立ち上がります。小学生、中学生、高校生たちが、「日本の宝を守りたい」という思いで募金活動を始めたのです。自分のことだけでも精いっぱいだった時代です。それでも、子どもたちは少しずつお金を集め、薬師寺に瓦を寄付しました。

寄付が行われた昭和26年に小1だった人は現在82歳、中3だった人は90歳になっています。もしも中野小、日野小、延徳小、南宮中の卒業生で、身内に82～90歳の方がいたら、覚えているか聞いてみてください。修学旅行の時、バスガイドさんに「南宮中の瓦もその中にあったんですよ」と話すと、「ぜひ生徒の皆さんにもそのことを話してあげてください」と言われました。

さて、私は当時の小中学生、皆さんの大先輩はすごいな、と感ずることがあります。その子どもたちは、自分のためだけに行動したわけではありません。奈良にも薬師寺にも行ったことのない人がほとんどだったでしょう。それでも東塔を残し、未来の誰かがその塔を見ることができるように行動しました。

「誰かのために行動すること」つまり「相手を大切に思い行動に移すこと」を一枚の瓦に込めました。全校の皆さん、今日から7月3日までの1ヶ月間は前期人権月間になります。人権月間は南宮中がとても大切にしてきたものです。

来賓玄関ホールに展示してあるこの瓦は皆さんに訴えています。

「南宮中は昔から相手を大切に思うことをずっと大事にしてきたんだよ」

「教室で一人になっている人はいませんか」

「何気ない一言で傷ついている人はいませんか」

「SNSで誰かを苦しめる言葉が広がっていませんか」

この前期人権月間を通して全校生徒一人一人が、「人を大切にすることはどういうことか」をじっくり考える時間になることを願っています。

【前期人権教育強化月間中での学びの様子】

<1学年>

1学年では「安心できる1学年になろう!」をテーマに自分や友達を理解して、誰もが居心地の良い学級や学年をつくれるように人権の授業を行いました。

【第3時「片腕のラガーマン」(本当のやさしさとはなんだろう? 本当の友達とは何だろう?)を学習した生徒の感想】

- 本当の意味で助け合うのが大切だと思った。これからは相手のことをもっと考えて行動したり、本当に困っているときに助け合おうと思った。
- 真の親切とはどういうことなのかを改めて考えるきっかけになった。すべて助けるのも思いやり、でも「それは果たしてデニスのためになるのか」と考えた時、一番は自立するためにそつとすることだと思う。ありがた迷惑にならないように、人との接し方を考えられればいいなと感じた。

<2学年>

2学年はクラス替えをして、新しい学級でより深い仲間関係をつくるために、「お互いを尊重できる関係を築こう!」をテーマに、自分や友達をより深く理解して、みんなが安心して過ごせる学級や学年をつくれるように人権の授業を行いました。

【第2時「電車の中での出来事」(思い込みや決めつけの怖さを知るとともに、人との接し方について考えよう)を学習した生徒の感想】

- 人は見た目だけではわからないことがある。事情を知る前の見た目だけで判断しないようにしようと思った。また、悲しませないように優しく伝えることも大事だと思った。気遣いができるようになりたい。別の視点で見てみることも大切だとわかった。

【第3時「いつも一緒に」(本当の友達とは?)を学習した生徒の感想】

- 友達をいやだなと思う瞬間、その友達に対して批判的なことを思ってしまうけれど、本当に大切な友達を傷つけてしまうのは、自分も辛いことだと感じた。だから、一人ひとりを大切にしていきたい。話すときには自分の気持ちを伝え、相手が言ったことも受け止めることが大切だと分かった。「友達とこんな風に接したい」ということを、班の中で、一人ひとり考えられてよかった。

<3学年>

3学年では「同和教育～差別と闘う人々～」をテーマに、全国水平社や中野市の日野覚醒会について学び、差別解消に向け立ち上がった方々の心にふれる学習を行いました。

【第1時全国水平社設立を描いた映画「3月3日の風」を視聴し討論学習をした生徒の感想】

- 自分が被差別部落出身であることを美術学校の恩師や恋人に悟られそうになった万吉が、学校を去るか、自分の出自について話すのかみんなで話し合いましたが、とても難しかったです。被差別部落出身者がずっと受けてきた差別の歴史を考えると、本当のことを伝えて大切な人に嫌われるのが怖くて恐れてしまう気持ちも分かるし、何も言わずに逃げてしまいたくなる気持ちも分かります。でも、諦めてしまえば、何も変わりません。虐げられ続けることを受け入れるのは、人間を大切にしないということです。勇気を出して声を上げてみれば、同じように傷ついてきた人々が協力して現状を変えていけるかもしれないので、諦めずに声を上げていくことが大切だと思いました。

<全校(人権委員会の活動)>

人権委員会では、「すごろくトークング」や「ありがとうリレー」を行いました。すごろくトークングでは、4人程度の班ですごろくをして友達と楽しくお話をしました。また、ありがとうリレーでは、友達にやってもらって嬉しかったこと等を伝え合い、和やかな雰囲気の中で、人権教育学習を進めることができました。

